

デンデンムシのかなしみ

新美南吉

一匹のデンデンムシがありました。

ある日、そのデンデンムシは、大変なことに気がつきました。

「わたしは今までうっかりしていたけれど、わたしの背中の中の殻の中には、かなしみがいっぱいつまっているのではないか」

このかなしみは どうしたらよいでしょう。

デンデンムシは、おともだちのデンデンムシのところに行っていきました。

「わたしは もう生きていられません」

と そのデンデンムシはおともだちに言いました。

「なんですか」

と おともだちのデンデンムシはききました。

「わたしは なんとという不幸せなものでしょう。わたしの背中の中の殻の中にはかなしみがいっぱいつまっているのです」

と はじめのデンデンムシが話しました。

すると おともだちのデンデンムシは言いました。

「あなたばかりではありません。わたしの背中にも、かなしみはいっぱいです。」

それじゃ仕方ないと思って、はじめのデンデンムシは、別のおともだちのところへいきました。

すると そのおともだちも言いました。

「あなたばかりじゃありません。わたしの背中にもかなしみはいっぱいです」

そこで、はじめのデンデンムシは また別のおともだちのところへいきました。

こうして、おともだちを順々に訪ねていきましたが、どのともだちも同じことを言うのでありました。

とうとう はじめのデンデンムシは気がつきました。

「かなしみは 誰でも持っているのだ。わたしばかりではないのだ。わたしは わたしのかなしみをこらえていかなきゃならない」

そして、このデンデンムシは もう、嘆くのをやめたのであります。

※原作の表記はカタカナ、旧仮名遣いです。原作を踏まえ、朗読原稿として表記しました。

(文責…名古屋文化短期大学)